



本年の南水の結実は概ね良好と見られますが、園地や枝単位でバラツキがみられます。各園の結実状況を良く確認しながら摘果作業を進めてください。また、薬剤散布が遅れている園が見られます。開花期や落花期の定期防除が遅れた場合は、下記の散布日程を参考にして前倒しで進めてください。

1. 5 月下旬の散布（前回より 10 日後）

前回に引き続き、黒斑病、黒点病、シンクイムシ類、アブラムシ類、ハマキムシ類、カイガラムシ類の防除期となります。

🌸 開花期や落花期の定期防除が遅れた場合は、前倒しで散布を進めましょう！

散布時期：5/27～31 頃（時期は目安となります。雨が続く場合は前倒しで散布しましょう！）

散布薬剤

水	1 0 0 ℓ
展着剤	2 0 ml
ダズバン DF	3 3 g（21 日前、3 回）
アントラコール顆粒水和剤	2 0 0 g（45 日前、4 回）

対象病害虫：黒斑病、黒星病、赤星病

シンクイムシ類、ハマキムシ類、クワコナカイガラムシ

散布量：10 a 当たり 350 ℓ

（注意事項）

- ① アブラムシ類の発生園はバリアード顆粒水和剤 4,000 倍（前日、3 回）を加用すること。
- ② 葉色が薄い場合や黄化が見られる園は、ビックマグの 1,000 倍を今回から 3 回程度連続して加用する。

2. 6 月上中旬の散布（前回より 15 日後）

🌸 梅雨の時期に入ります。雨や曇天が続く場合は、前倒しで散布を進めましょう！

散布時期：6/10～15 頃（時期は目安となります。雨が続く場合は前倒しで散布しましょう！）

散布薬剤

水	1 0 0 ℓ
展着剤	2 0 ml
ロブドー水和剤	1 2 5 g（14 日前、5 回）
サイアノックス水和剤	1 0 0 g（7 日前、3 回）

対象病害虫：黒斑病、黒星病

シンクイムシ類、ハマキムシ類、クワコナカイガラムシ

散布量：10 a 当たり 400 ℓ

（注意事項）

- ① 袋掛け前の防除とする。また、散布後 1 週間以上を経過した場合は、キノンドーフロアブル 1,000 倍（3 日前、9 回）を特別散布し、袋掛けを行う。
- ② 前年度、リンゴハダニ発生園は、サンマイト水和剤（14 日前、2 回）を加用すること。

🚦 仕上げ摘果について（詳しくは講習会で対策を講じます。参加ください。）

✧ 南水の目標とする玉数(適玉)12玉～14玉中心（5kgダンボール）とする。

✧ 本年の南水は果形の良く軸も長いので、摘果時で良品質な果実を選択しましょう！

- ① 満開後45日までに行う。（6月15日頃には終了させる）
- ② 果形がやや長く、果柄が長く（3cm以上）、太い正形果を残す。（図1）
- ③ 果台が横向き、または斜めの果台の果実で、外向きの果実を残す。⇒上向きは軸折れ・枝ずれ・日焼けになりやすい。
- ④ なるべく太い果台の短果枝の果実を残す。⇒肥大良好（図2）
- ⑤ 無着葉果そうの果実や果そう葉が少ない果実は摘果する。（肥大が劣るため）
- ⑥ 380～400gの果実生産には、1果当り30～40枚程度の着果量
- ⑦ 4果そうに1果。短果枝群を基準に摘果をする場合は、2～3短果枝群に1果を目安に着果させる。（短果枝群＝もともと1つの花芽から発生している花芽の集合した短果枝）
- ⑧ 1mの側枝では5～6果程度の着果量になる。

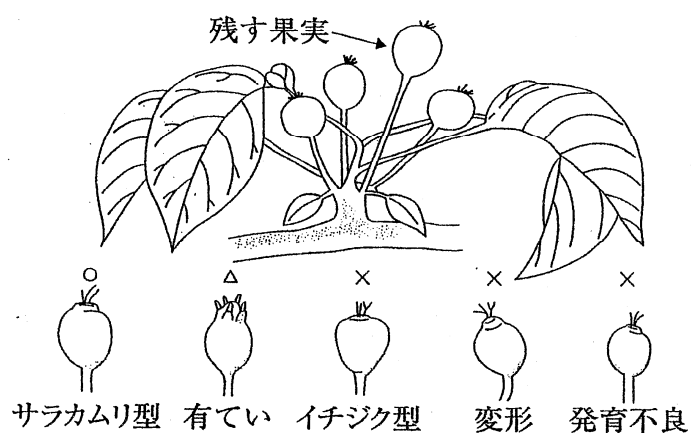


図1 摘果で残す果実（○）と落す果実（×）

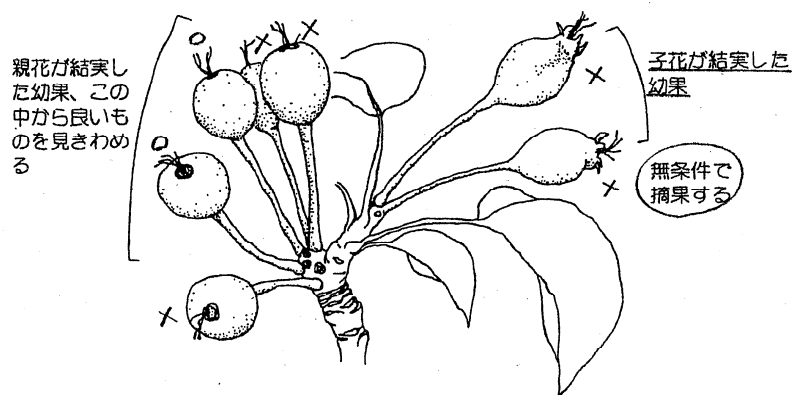


図2 子花の結実した果そう

🚦 新梢管理について

① 摘芯

- 時期：摘芯する新梢が15cm程度伸びた時から実施できるが、あまり早くから実施しないこと。（少し様子をみて園地が暗くなった頃に実施する）
- 元葉4～5枚で摘芯し、その後も伸びる場合は繰り返し摘芯（4芽切り＝ヨメコロシ）する。
- 先端新梢2～3本は、そのままにしておく（特に北側は折れやすいので多目に残す）
- 側枝候補となる新梢は、早めに棚下にくぐらせておくこと

② 芽かき

- 予備摘果・仕上げ摘果・見直し摘果・袋かけ等の作業に合わせて年間を通じ実施する。
- ハサミで切るのではなく、手で搔けるうちに処理する。（赤芽のうちに）
- 主枝の中央部から先は樹勢強化のため芽搔きはしない。

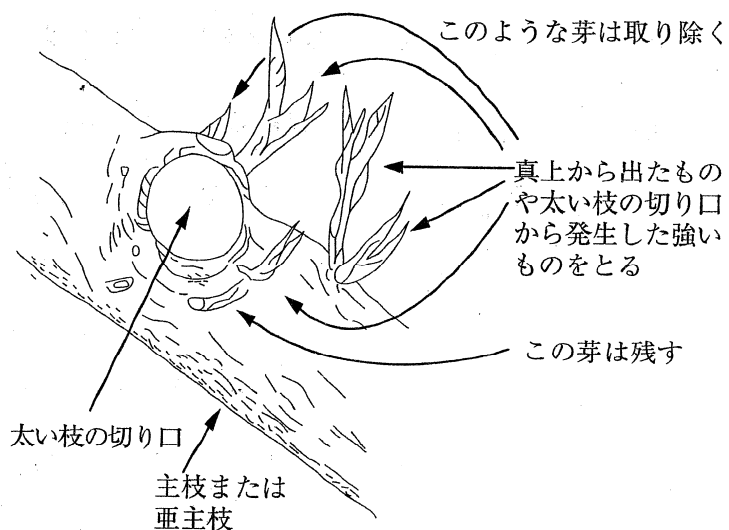


図3 切り口の芽かき方法